

3 武士の時代の始まるところ

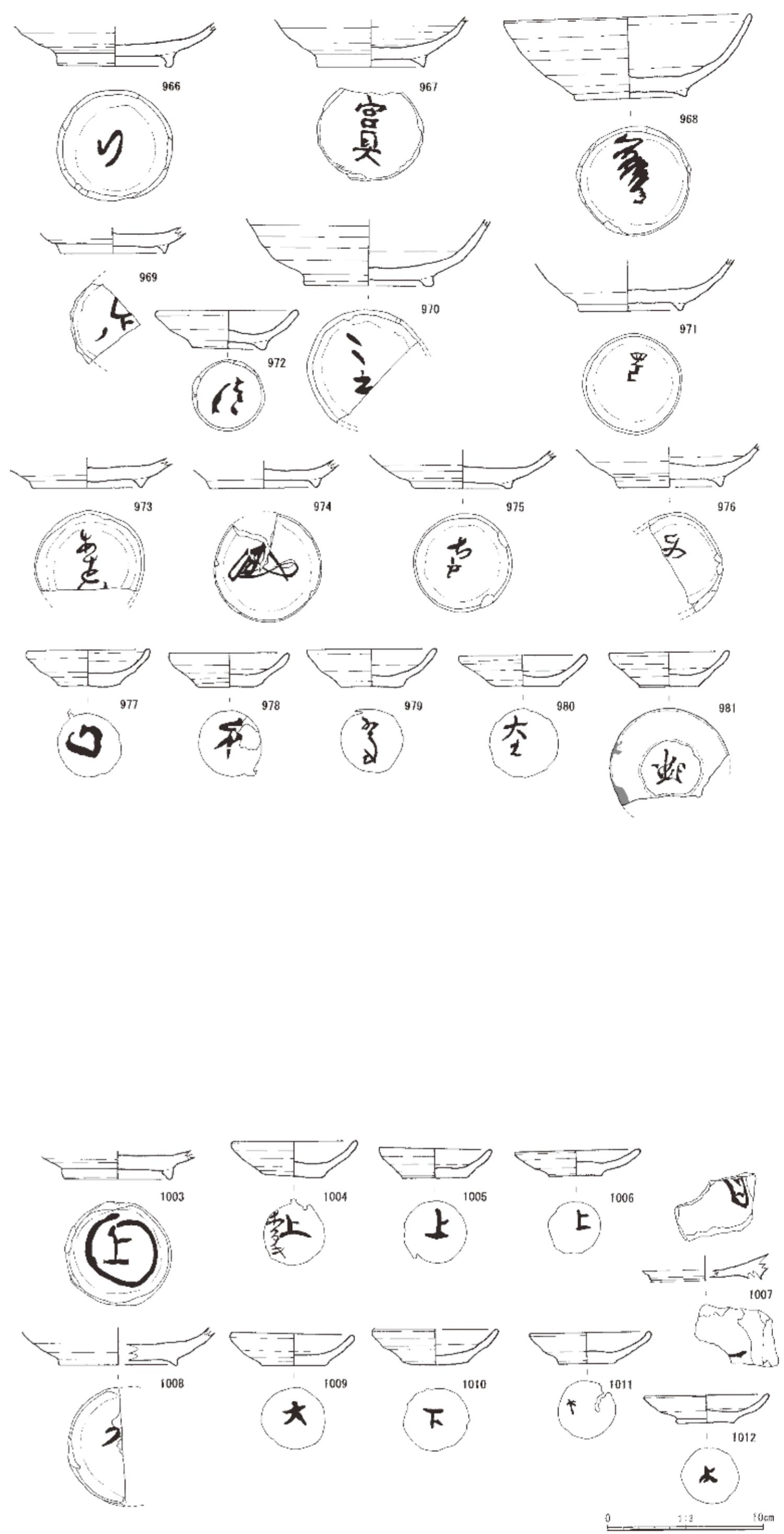
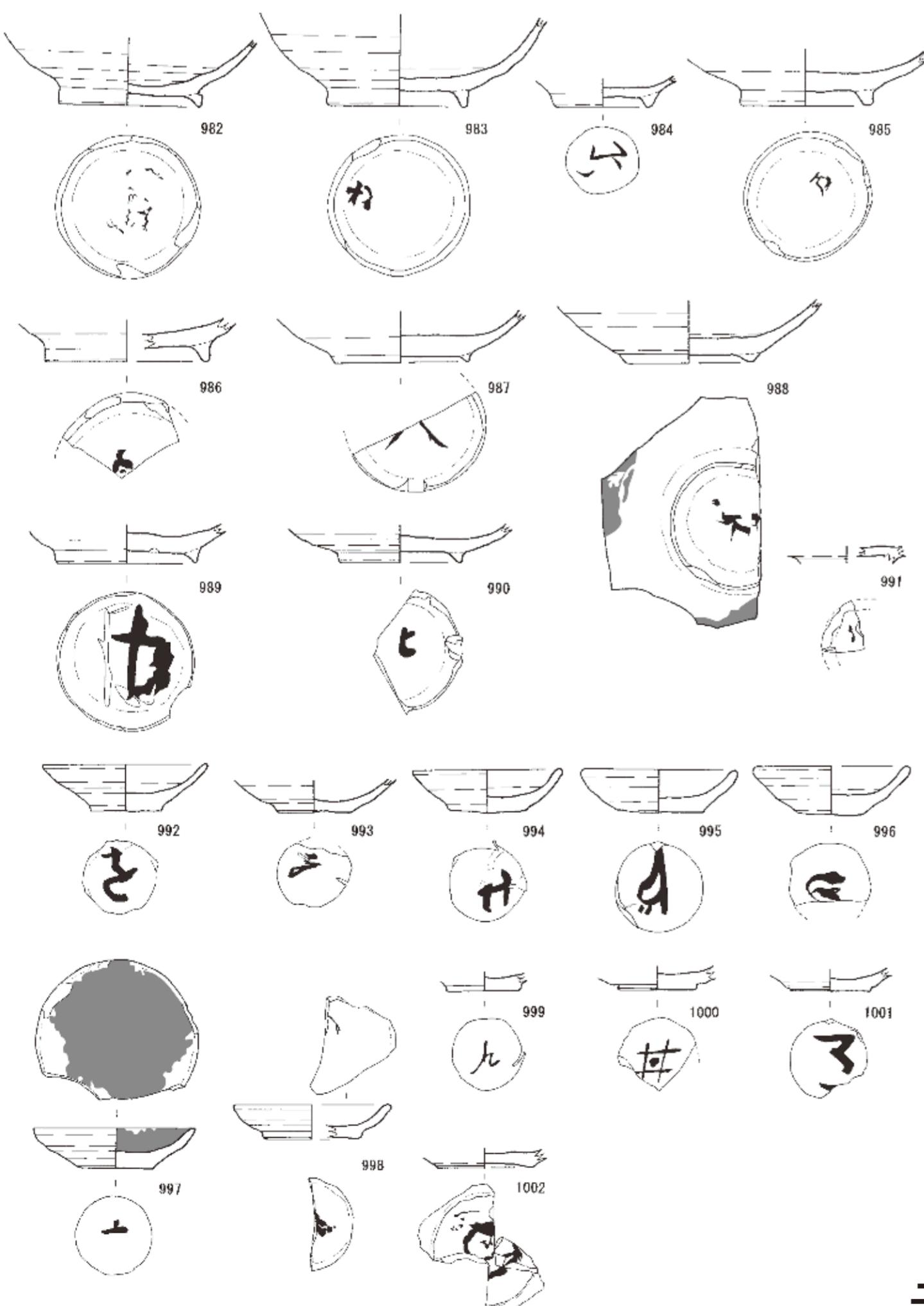
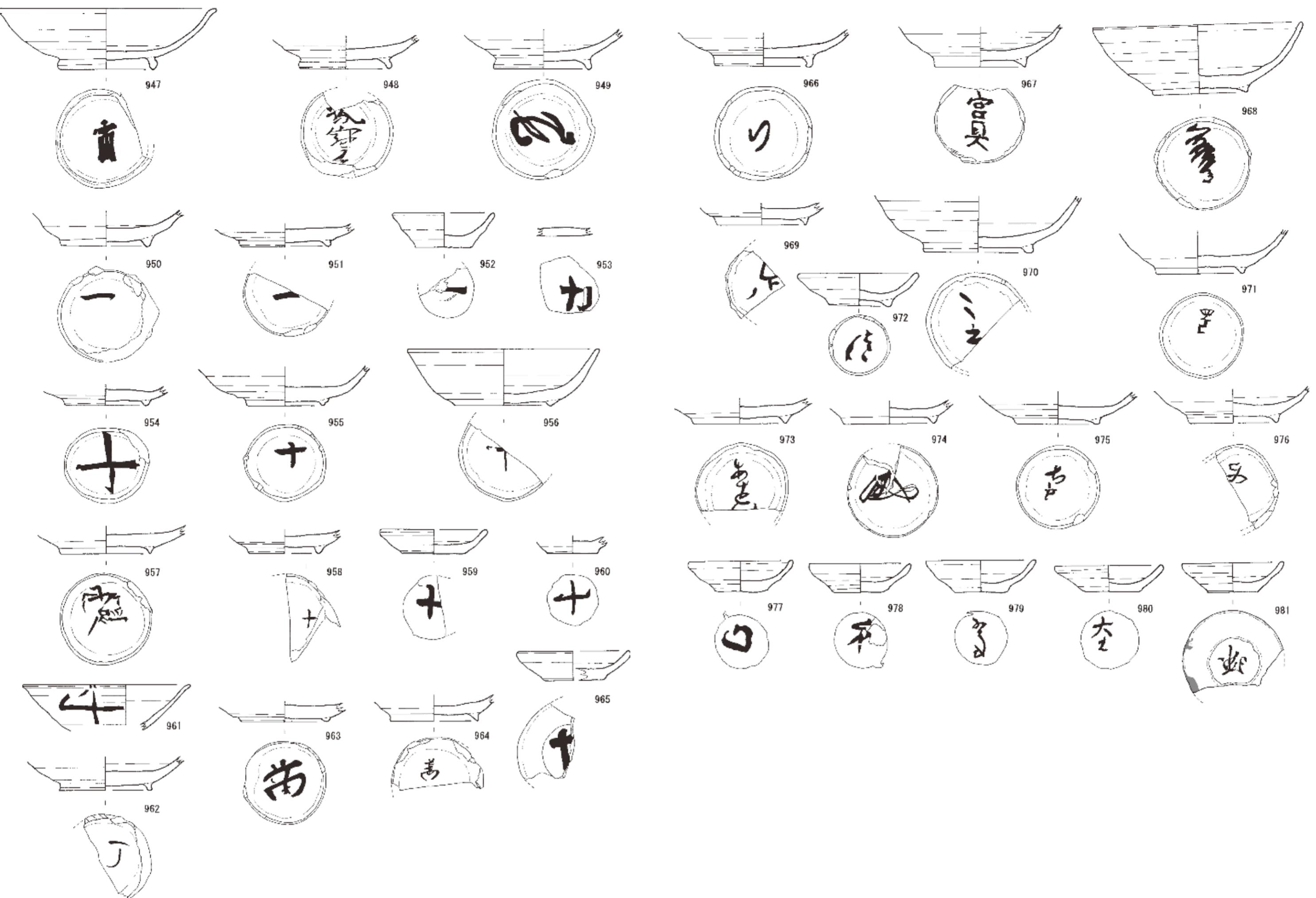
武士は戦闘を家業とする人々のことです。平安時代の終わりごろになると、それまで政治を支配していた貴族に代わり、武士が実権を持つようになり、そのトップは、明治時代になるまで支配階級として政権を担いました。

藤枝パーキング上り付近に位置する寺家前遺跡では、平安時代後期（11世紀末）から始まる溝や柵列等で区画された屋敷地群が合計3箇所発見されています。

屋敷地群は、溝や柵で四角く二重に区画されており、内郭とした内側の区画内には、柱が太く規模が大きい建物が密集し、外郭と呼ぶ外側の区画には、柱が細く規模が小さい建物が散漫に配置されている状況が明らかになりました。外郭は約2,500m²、内郭は約600m²の規模で共通しています。

屋敷地群は平安時代後期～鎌倉時代中期（11世紀末～13世紀代）に最盛期であったようで、山茶碗をはじめとする土器が数多く出土しました。なかでも「花押」のある墨書土器は葉梨荘領主を表す可能性のあるものとして注目されます。

また、仮宿堤ノ坪遺跡でも、同じ時代の建物群や「花押」を書いたとみられる墨書土器が出土しています。仮宿地域の当時の領主に関わるものと考えられます。



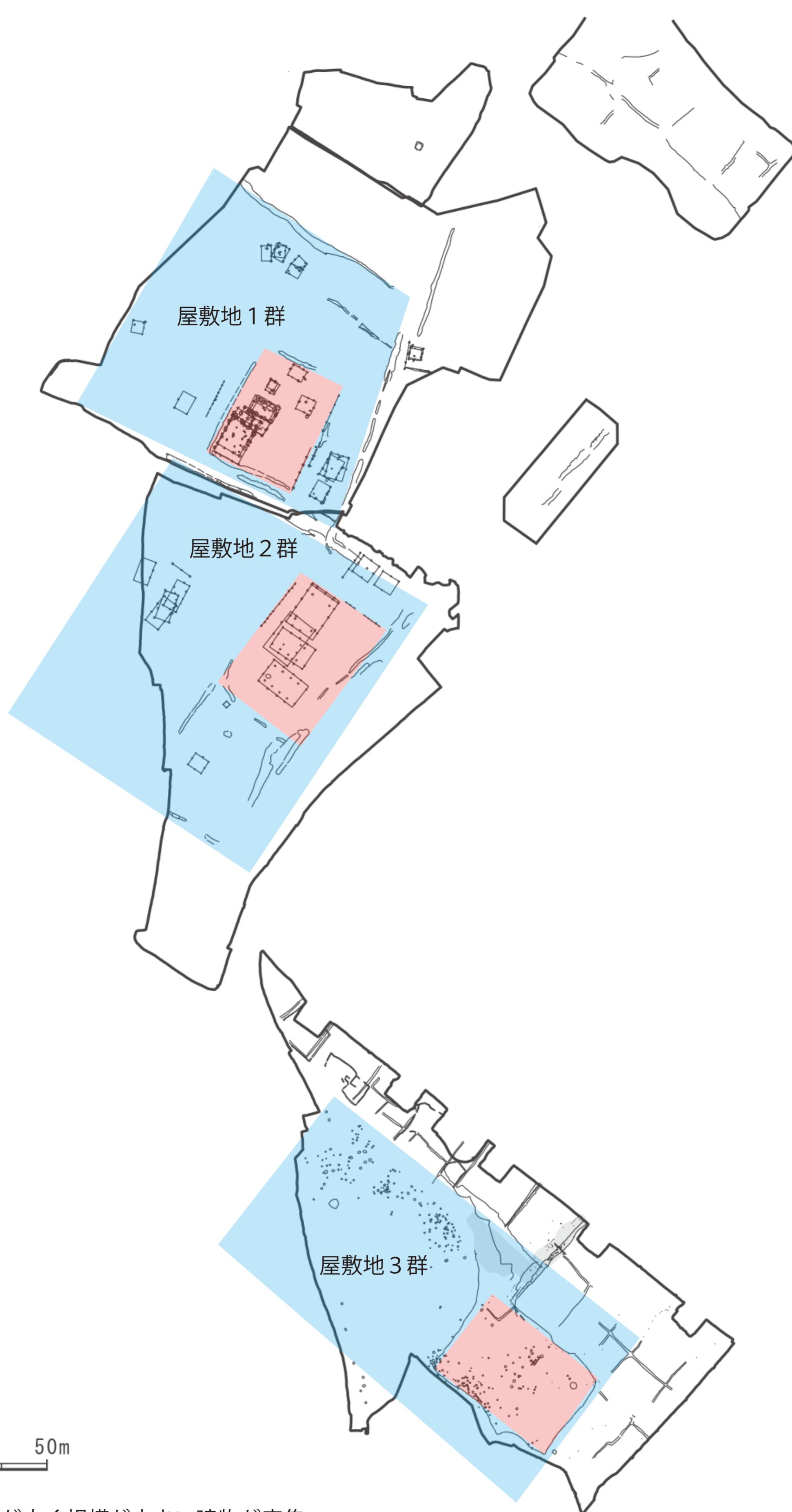
寺家前遺跡 墨書土器実測図



寺家前遺跡から東をのぞむ



寺家前遺跡全景

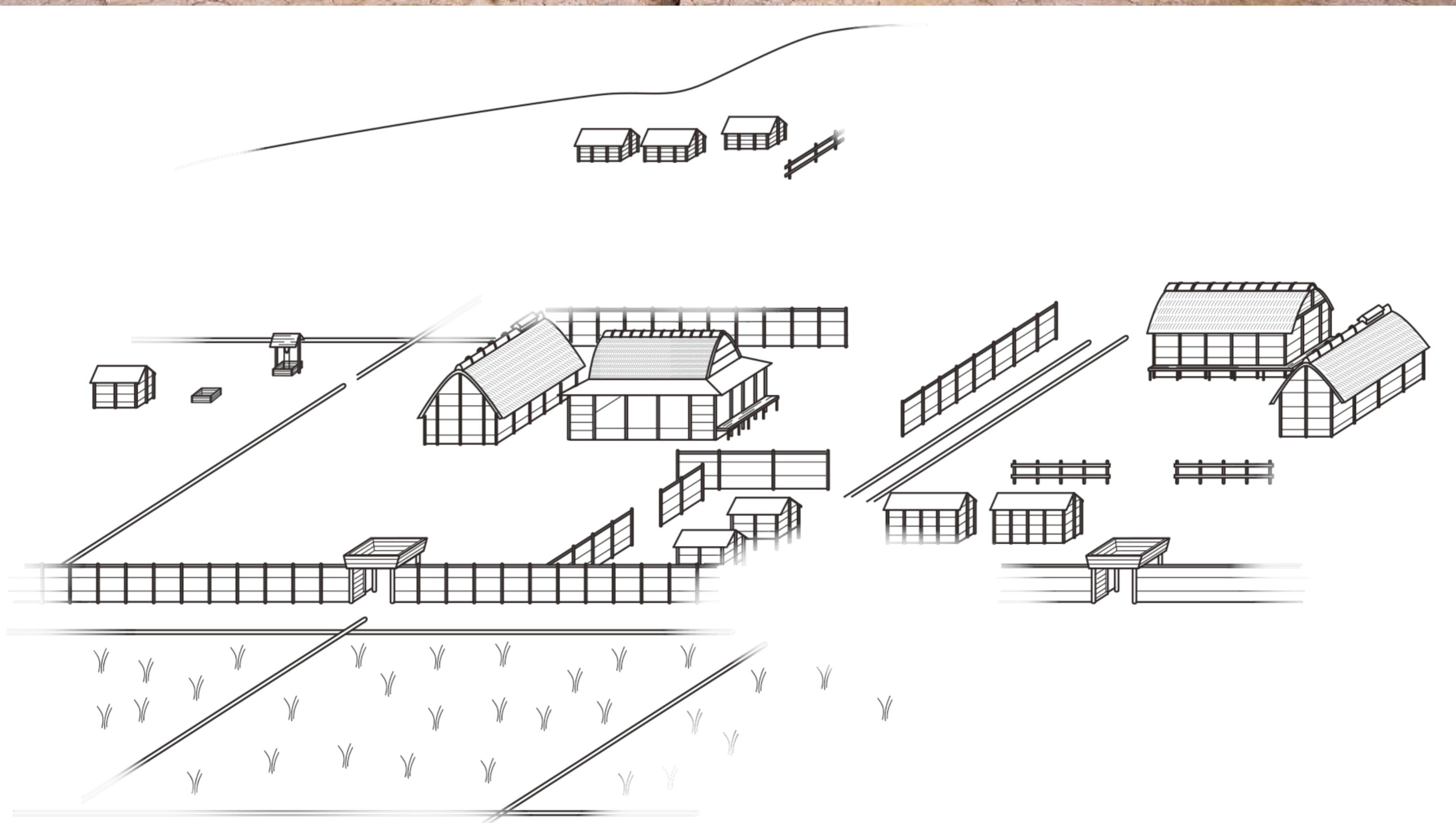


0 1:2,000 50m

内郭 柱が太く規模が大きい建物が密集

外郭 柱が細く規模が小さい建物が散漫

寺家前遺跡 平安時代後期～室町時代の屋敷地





寺家前遺跡 井戸



寺家前遺跡 草鞋



寺家前遺跡 扇

今川氏の駿河支配の出発点

屋敷地群は、鎌倉時代後期～室町時代（14世紀以後）も規模は縮小しながら存続していたと想定されます。建武4年（1337）、足利尊氏が今川範国に恩賞として「葉梨莊」を与えて以降、従来の領主に代わって今川家の家臣がこの地を治めるようになつたと考えられます。寺家前遺跡で発見された屋敷地群の衰退は、この事象と密接な関係があったと推測されます。

足利尊氏下文写 今川家古文章写

下す 今川五郎法師法名心省

早く領知せしむべし駿河国羽梨庄、遠江国河会郷、ならびに八河郷の事右、人を持って勲功の賞として宛行ふところなり。てへれば先例を守り、沙汰致すべきの状件のごとし。

（足利尊氏）等持院殿

建武四年九月廿六日 御判

今川時代の藤枝

寺家前遺跡の周辺には「今川氏館」を筆頭に「矢部屋敷」「松井屋敷」「大楊屋敷」「左近屋敷」など、今川氏とその家臣に関連する屋敷地があつたと推定され、遺跡の北西には今川義元が台頭の契機となる花倉の乱の舞台になった花倉城が存在しています。寺家前遺跡では今川時代の遺構は明確ではありませんが、寺家前遺跡を含む西駿河地域が今川氏にとって重要な土地であったことを示していると言えるでしょう。

**文化財めぐり
駿河今川の里 葉梨郷**

藤枝市郷土博物館
☎054 (645) 1100
志太郡衙資料館
☎054 (646) 6525
史跡田中城下屋敷
☎054 (644) 3345

今川氏館跡 14世紀の中頃今川範氏によって遍照光寺の門前から天神前と呼ばれるあたりに築かれたと推定され、以来今川氏の駿遠両国支配の拠点のひとつとして重要な役割を果してきましたが、武田の駿河侵攻によって焼失したと伝えられます。

松井屋敷跡 今川氏の家臣松井宗次・助宗父子の屋敷が所在していたと考えられ、周辺に「上松井」や「下松井」などの小字名が現在に残っています。

大楊屋敷跡 大楊氏の屋敷推定地。「大柳（ホーヤギ）」の小字名が現在に残っています。

左近屋敷跡 今川氏旗下の松井左近の屋敷推定地。

矢部屋敷跡 今川範氏が範氏の代に今川氏に服属した国人矢部氏の屋敷推定地で、「矢部屋敷」の小字名が現在に残っています。

ウスイ坂 中ノ合から朝比奈方面に通じる古来からの峠道。

鹿鳴渡 花倉から瀬戸川の谷筋に通じる古来からの峠道。

衣原古墳群（市指定史跡） なだらかな丘陵の先端部に築造された古墳時代後期（6世紀）の群集墳で、20基以上の存在が確認されています。中でも直径30mにもおよぶ大規模な円墳の築山古墳は、古墳群の中核的な存在となっています。

トキワガキ（市指定天然記念物） カキノキ科に属する灌木で、普通のカキが落葉するのにに対してこのカキは常緑であることがからこの名が付けされました。また、このカキは雌株で径1~2cmの実を結びます。四国や九州の暖かい地方で自生し、静岡県付近が北限域と考えられています。

白瀧の滝 高さ約160m、幅約3mの規模で清流が流れ落ちる滝で、江戸時代に編纂された地誌「駿河記」には、「瀧の上を天狗遊と云て平なり。眺望伊勢の海山に及べり。」といった記述が見られます。

安養寺址 今川貞世の曾孫範将の菩提寺で、一時期長慶寺の塔頭となっていましたが、現在は静岡市小坂に移されています。

灌洞寺 山号を石龍山と称す曹洞宗の寺院で、二階堂氏や依田氏にゆかりのある寺院です。

常樂院 明応9年（1500年）に開創されたと伝えられ、今川氏の祈願所として手厚い保護を受けた曹洞宗の寺院です。市指定の有形文化財である木彫上人作毘沙門天像が所蔵されています。

花倉城跡（市指定史跡） 今川氏が駿遠両国の統制の拠点として花倉の地に居館を構えた際に築かれた結構の城です。花倉の乱の舞台にもなりました。

木陰上人作毘沙門天像

白瀧の滝

(左)今川泰範の五輪塔
(右)雪齋長老の無縫塔

(左)内は現在残っている今川氏の居館や家臣団の屋敷の所在を想定させる小字名

(左)安養寺址
(右)大沢寺址

第5版/平成17年3月

仮宿堤ノ坪遺跡

藤枝岡部インターチェンジと国道1号を結ぶ道路付近

朝日山城の山麓で、仮宿堤ノ坪遺跡の発掘調査を行いました。朝日山城は不明な点が多い城ですが、平安時代後期にこの地に根付いた岡部氏との関わりが推定されています。

遺跡は、平安時代末から鎌倉時代の、掘立柱建物跡、柱穴跡などで、山裾のわずかな平坦部を利用して、約30m四方の範囲に小規模な屋敷跡があったとみられます。

土器類のほか、白磁片、木製農耕具、寺家前遺跡と同様、「花押」のような墨書きがある土器が出土しており、この地域の領主を示すものと考えられます。古文書などではわからない、地域の歴史の手がかりとなる貴重な歴史資料です。なお、山茶碗の中に、特殊な器種がみつかっています。仏具として用いる、托と碗が一体化したように見える形状です。ここに住んだ幻の領主が、日々、仏具として用いていたものかもしれません。



仮宿堤ノ坪遺跡 調査地全景



仮宿堤ノ坪遺跡 水田跡



仮宿堤ノ坪遺跡 建物群